

# 外用剤3品市場投入

## ジャパンメディック 第一三共と開発

医薬品製造のジャパンメディック（富山市横越、前田康博社長）は、製薬大手の第一三共ヘルスケア（東京）と軟こうなどの外用剤三品目を共同開発し、相次いで市場投入した。同社へのOEM（相手先ブランドによる生産）供給は、既存製品と合わせて六品目となった。今後も外用剤専門メーカーとして業容の拡大を図っていく。

ジャパンメディックは、大としていた。今回、共同開発手から受託した肩こりやかゆみ止め医薬品のOEMを主力局・薬店向け）医薬品で、か

ゆみ止めの「マキロンSかゆみどめジェル」と「オイラックスソフト」は三月十四日、殺菌消毒の「マキロンSキズ軟膏」は今年四月に発売された。

オイラックスブランドでは既に三品目でOEM供給を行っていたが、製剤技術や開発スピードなどが評価され、新たにマキロンブランドも手掛けることになった。

新製品三品目は軟こう剤やクリーム剤、ゲル剤を扱う第三、第四工場で製造する。生産能力は二工場の計セラインで年間三千五百万個。生産能力には前年度実績の二・五倍の余裕があるため、今回のO

E Mでは設備投資は伴わない。その分の経営資源を人材育成に充当。来年度も本年度と同じ十人（前年度は二人）の新入社員を採用するなどし、製品開発や生産体制を強化する。

同社の二十年二月期の売上高は約二十六億円。七割以上を外用剤が占める。今後は化粧品を含めた外用剤分野を拡大し、三年後には売上高を三十億円に引き上げたい考え。

ジャパンメディックが共同開発した外用剤3品目

